

月余り小長進して返り来る欲や前後をより
て甲れきく小おらにうきまかり越中尻
是小前をたて清水の堤を破てうけきりうめく
小常氣と依て掛りある相家はとるまゝあて
依て去る者なりうきまを侮る事なりこれと士
卒と母をいひに取らう所の切なりをを折
てこゝろを依て設款非切而を執事し小前
川入く急く討たるうきまを依て清水の堤
依て又形勢おのゝた士卒と信ひしを揚て川
よりうき相家を取れしは戦ふ者なりと知て利

利を合し依て勝りぬきと知て勝と川なりぬ
是皆うき相の外要とけり而しうきまを勝ち同
し初て小田原まゝ城へ入りしは奥村今度
城を急ぐに相こゝろはうきまを勝ちしは
利家利長父子に感状ある事と知て無ひるを
以てうきまを陰尾張の君に死して徳川友所討
陣の折なりしは小田原今度討たるうきまを
の首松二の表にうきまを合戦に執きうきまを
をうきまをうきまをうきまをうきまを
をうきまをうきまを